

道徳の時間学習指導案

福山市立旭小学校
指導者 林 泰義

1 日 時 平成14年12月10日（火）第5校時

2 学 年 第2学年 林学級 26名

3 場 所 2年 林学級

4 主題名 「すごいなあ」 2－（4）尊敬・感謝

5 ねらい 日頃、お世話になっている人々に尊敬と感謝の気持ちを育てる。

6 資料名 「おじいさんといっしょに」（「しんぶんしのシャツ」光文書院をもとに作成）

7 主題設定の理由

- よい人間関係を築くには、互いを認め合うことが大切だが、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。そして、それは日々の生活、さらには自分が存在することに対する感謝へと広がり、生命尊重や人間尊重の精神を支えることになる。

高齢者問題、これからの我が国にとって大きな課題である。ますます進む高齢化社会のなかで生きていくためには、高齢者を理解することが大切である。そのことによって初めて尊敬・感謝の気持ちが育つものと考えられる。

- 高齢化社会と言われているが、核家族化が進むなかで、家庭内での祖父母をはじめ、お年寄りに接する機会がだんだん少なくなっている。それだけに、お年寄りに対する理解も乏しい。尊敬・感謝の気持ちは、その人に接し、具体的な行為を通してその人を理解することによって育てられる。童は、動植物に強い興味と関心を持っている。

本学級の児童は、同居したり、すぐ近くにおられる祖父母を持つ子がおよそ半数である。めったに会うことがないという子も含め、祖父母の体や健康を気遣う子が多い。お年寄りに対しての思いやりの気持ちをもっていることはうかがえる。しかしながら、すばらしさやありがたさに気づき尊敬・感謝の思いをいただいている子はすくないように思う。

2年生の子どもたちは、老人会の運動会に参加し、競技をいっしょにして楽しんだり、生活科の「あきのフェスティバルへようこそ」の学習で地域のお年寄りに来てもらったり、来てくれた方にお礼の手紙を書いたり活動を行ってきた。これからも公民館でのサークル活動に参加しておられるお年寄りと交流したりして、直接触れ合う機会を増やしながら、すばらしさやありがたさにも気づくようにしていきたい。

- この資料は、近所のおじいさんにさそわれて山登りをすることになった主人公が、いろいろなことをよく知っているおじいさんの姿を見て、あらためて感心する内容である。指導にあたっては、おじいさんの姿に感心する主人公に共感させながら、お年寄りを尊敬し、感謝する心を育てていきたい。また、身近におられ、直接かかわって下さっているお年寄りもおられるので、その方がして下さっていることをビデオで紹介して、実感としてとらえられるようにもしたい。

これからもお年寄りと直接触れ合う活動を通して理解を深め、親しみをもって接しようとする態度を育てていきたい。

8 準備物 板書用掲示物 ビデオ プロジェクター

--	--

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	支援と〇と評価☆
導 入	1 身近にいるお年寄りに接した経験を発表する。	○近くにおられるお年寄りとは何かいっしょにしたり、お話したりしたことを発表してみましょう。 ・昔の話をしてもらったよ。 ・昔の遊びを教えてもらったよ。 ・おもちゃを買ってもらったよ。	○家の祖父母だけでなく、他のお年寄りに接した体験をも発表するように声かけをする。
展 開	2 資料「おじいさんといっしょに」を読んで課題の設定をする。 3 課題について話し合う。	○お話を読んでめあてを考えましょう。 まさるくんは、おじいさんのとをどう思ったのだろう。 ○おじいさんは、まさるくんたちにどんなことをしたでしょう。 ・ゆっくり山にのぼった。 ・ささをおいて、山の水をのんだ。 ・はしを作った。 ・山の名まえや山のむこうにある町の名まえをおしえてくれた。 ・きのこをとった。 ・きのこのことをおしえてくれた。 ・きのこをささにさした。 ・まつたけのことをおしえてくれた。 ○まさるくんは、おじいさんのすることを見てどう思ったでしょう。 ・ささをおいて水をのむことをしていてすごいなあ。 ・すぐにはしを作ることができて、すごい。 ・山の名まえや町の名まえをよく知っているなあ。 ・きのこのあるところをよく知っているなあ。 ・きのこをささにさしてもってかえるなんて、よく考えるなあ。 ・ぼくの知らないことをいっぱい知っているなあ。 ・やさしいなあ。 ・ちえがあるなあ。	☆課題をはっきりつかむことができたか。 ○確認しながら提示しておく。 ☆おじいさんの行動をとらえることができているか。 ☆すばらしさをとらえ共感できているか。
	4 身近な生活のなかでお年寄りに対してすごいなあ、えらいなあと思ったことを出し合う。	○おじいちゃん、おばあちゃんってすごいなあ、えらいなあと思ったことはありませんか。 ・ねばりづよいなあ。 ・よくはたらくなあ。 ・なんでもよく知っているなあ。 ・やさしいなあ。	○自分の気持ちを素直に語れるようにする。 ☆身近な生活での体験が語られているか。 ☆おじいちゃんやおばあちゃんのすばらしさに感づいているか。
終 末	5 ビデオを見る。	○ 15 年間、毎日チャボやうさぎのお世話をして下さっているおじいちゃんのビデオを見てみよう。	

道徳の時間学習指導案

福山市立旭小学校
指導者 泰地 京子

- 1 日 時 平成14年12月10日（火）第5校時
- 2 学 年 第2学年 泰地学級 26名
- 3 場 所 2年 泰地学級
- 4 主題名 お母さんありがとう 2－（4）感謝
- 5 ねらい 身の回りでお世話になっている人に感謝しようという心情を育てる。

- 6 資料名 「きつねとぶどう」（文溪堂）

7 主題設定の理由

- よりよい人間関係を築くには、互いを認め合うことが大切である。その根底には相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、尊敬と感謝の念が生まれる。

子どもたちは、家族をはじめとして多くの人々の世話を受けて暮らしているにもかかわらず、自分に対する周囲の人々の世話をごく当たり前のようにとらえがちである。日頃、世話になっている人々の好意や善意、愛情を素直な心で受け止め、感謝の気持ちを素直に表すことの大切さに気づかせることが必要であると考えます。

- 本学級の児童は、もっとも身近な家族に対しては、身の回りの世話をしてもらっていることなど、感謝の念をある程度もっていると思われる。しかし、それを当たりまえのこととして受け取り、感謝の心は十分意識化されていない。

また、生活科の学習などを通して、学校や地域で児童の安全や生活を支えている人がいることは知っている。しかし、その視野は狭く、世話になっているという自覚は少なく、当然のこととして受け止めている児童も少なくない。

- 資料「きつねとぶどう」は、子を思う親ぎつねの深い愛情と、親に対する子ぎつねの感謝の気持ちが描かれている。

指導に当たっては、自分の命も顧みず子ぎつねを助けようとした親ぎつねの心情に深く共感させることにより、子ぎつねが感謝する場面で、児童の思いを十分引き出したい。終末は、日頃学校でお世話になっている方をビデオで取材したものを用い、感謝の対象を広げたい。そして、毎日楽しく生活できるのは、世話をしてくれる人たちがいるからであることに気づかせ、感謝の気持ちを表すことができるようにしたい。

また、本時の後、お世話になっている人たちに手紙を書き、感謝の気持ちを表す活動を組み入れたい。

- 8 準備物 板書用掲示物 ペープサート ワークシート ビデオ

9 学習展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	支援○と評価☆
導 入	1 日頃、自分たちの周りでお世話をしてくれている人たちについて話し合う。	○お世話になっている人たちには、どんな人たちがいるでしょう。 ・お父さんやお母さん。 ・先生や給食の先生、保健の先生。 ・登校班の班長さん。	
展 開	2 資料を読み、課題を設定する。	○お話を読んで、どんなところが心に残りましたか。 ・猟師に出会ったところ。 ・子ぎつねを逃がしたところ。 ・「お母さんありがとう」と言うところ。 きつねの親子の気持ちを考えよう	○子どもたちの感想から学習への方向付けをする。 ☆課題がつかめたか。
	3 きつねの親子の心情について話し合う。	○「まっておいで」とえさをとりに行った親ぎつねはどんな気持ちだったでしょう。 ・おなかをすかせてかわいそう。。 ・早くえさをとってこよう。 ○「コーン、あぶない。早くにげなさい。」と叫んだ親ぎつねの心の中は、どうだったでしょう。 ・子どもが撃たれたらどうしよう。 ・子どもを助けなければ。 ・自分はどうなっても子どもを助けては。 ○「おかあさん、ありがとう」と言いながら、子ぎつねはどんなことを思ったでしょう。 ・このぶどうは、お母さんがとってきてくれたのかな。 ・お母さんの味がする。 ・お母さんはどうしちやっただろう。 ・お母さんが助けてくれてありがとう。	○自分のことを考えず、子どもを思う気持ちを押さえる。 ☆子を思う深い愛情に気づくことができたか。 ○ワークシートに子ぎつねの気持ちを書かせる。 ☆考えを深めることができたか。
	4 感謝の気持ちをもった経験を話し合う。	○心から「ありがとう」言いたいことはありませんか。 ・家に帰って誰もいなかったとき、隣のおばちゃんが声をかけてくれた。 ・学校の帰りにころんでけがをしたとき、近所のおばちゃんが助けてくれた。	○家族だけでなく、広い範囲から引き出すようにする。 ☆自分の体験を思い出せたか。
終 末	4 ビデオを見る。	○ビデオを見ましょう。	○毎日、どんなに世話になっているか実感させる。 ☆世話になっていることを自覚し、感謝の気持ちをもてたか。